

加古川市青少年団体連絡協議会

平成14年度 “ 青少年の夢 ” 募集事業

『学校へのメッセージ』優秀作品集

平成14年12月

加古川市内の青少年団体が集まって活動している加古川市青少年団体連絡協議会では、子どもたちが毎日の生活の中で感じていること、友だちや大人、あるいは社会に対して言いたいと思っても言えないこと、そんな声を聴いていくこと、私たち青少年団体や大人がその声を知り、何をすべきか考え、取り組んでいくことが必要ではないかと考えました。

そこで、市内の小中学校及び教育委員会のご協力もいただき、夏休みの期間中、市内の小学校4年生から中学校3年生までの子どもたちを対象に「学校へのメッセージ！！」と題して、「完全学校週5日制はどう？」「あなたが思う夢の学校は！！」「ぼく、わたしの学校のココがすばらしい！」などのテーマで作文を募集いたしましたところ、小学生156件、中学生422件の計578件もの多数の応募をいただきました。

たくさん応募いただいた中から、学校や教育委員会、PTA、少年団等の関係者の方々にも加わっていただいて審査を行いました。どの作品も、お一人おひとりの熱い思いが盛り込まれていて、とても難しい審査でしたが、この中から優秀な作品を10点、選ばせていただきました。

ここに、青少連協夢大賞に選ばれました1点と優秀賞9点を冊子にし、その栄誉をたたえさせていただきたいと考えております。本作品は、市役所のロビーに展示して市民のみなさまにご覧になっていただくほか、私どものホームページにも掲載させていただき、加古川の青少年のメッセージを全国に情報発信いたしたいと考えております。

受賞されたみなさま方には、今後も勉強だけではなく、友情を深めるなど、引き続き充実した毎日を送っていただきたいと思います。

また、惜しくも選にはもれましたが、力強いメッセージを数多くよせていただいた市内の青少年の方々も、みなさん方のご活躍を期待いたしております。

平成14年12月

加古川市青少年団体連絡協議会
会長 本山 政 幸

目次

1 青少連協夢大賞

『元気にあいさつしていますか』

加古川中学校 1年 森田昌嗣

2 優秀賞

(1) 『自分が考える「学び」や「勉強」』

野口南小学校 6年 山浦万里奈

(2) 『このごろ学校が楽しいワケ！』

尾上小学校 6年 熊田みずえ

(3) 『コレがあるから学校が楽しい。守っていきたい物。』

尾上小学校 6年 柴田麻衣

(4) 『完全学校週5日制』

陵南中学校 2年 山岸優子

(5) 『学校に行くのは理由がある』

中学校2年 矢野陽子

(6) 『あいさつの素晴らしさ』

陵南中学校 2年 長尾淳也

(7) 『完全週5日制はどう？』

神吉中学校 3年 福田祥太郎

(8) 『学校の良いところ』

神吉中学校 3年 柴田ひとみ

(9) 『トライ・やるをしてみて...』

陵南中学校 2年 松島淳

青少連協夢大賞

元気にあいさつしていますか

加古川中学校 1年 森田昌嗣

加古川中学校には、「生活基本五則」というものがあります。集団でよりよい学校生活を送るための基本的なルールです。「学習にしっかり取り組む」「時間厳守」「あいさつ・会釈の励行」「服装を正しく整える」「真面目に掃除する」どれもあたり前のことですが一人ひとりが、心がけないと、いい学校がくれません。「あいさつ」というのは、いろんなあいさつがあります。朝のあいさつ、「おはようございます」授業の始まりと終わりのあいさつ、「お願いします・ありがとうございました」それから、「こんにちは」「さようなら」「しつれいします」…。考えると、本当に数えきれません。

幼い頃の僕は、「ごめんください」と玄関で人の声がするとすぐ飛んでいきました。応待する母のとなりでお客様の様子を好奇心いっぱいじっと見つめていました。すると母は「お客さんにちゃんとあいさつしなさい。だまっていたらお行儀が悪いよ」と注意したのです。それでも恥ずかしくて、「こんにちは」の一言がなかなか言えませんでした。それから繰り返し、あいさつするように言われて、初めは小声でしたが、だんだんと言えるようになりました。いつの間にか、「あいさつ」ということが自然に身についていた気がします。あいさつは、コミュニケーションの始まりといいますが、出会ってあいさつをした瞬間、相手の気持ちが伝わってくるように思います。そして、会話をしているうちに、相手を知り、共感をおぼえることがいくつもできます。その人の持つ個性、雰囲気といったものは、一言のあいさつから自然ににじみでてくると思われません。人と人との和を広げていく第一歩のあいさつ。そのあいさつを得意とする自分を宝ものにして、もっと、その一言が輝く自分になっていきたいです。そして、人とのかわり多くものを学び、生きる力を分かちあう、小さな輪を広げていきたいと思います。

優 秀 賞

自分が考える「学び」や「勉強」

野口南小学校 6年 山浦万里奈

私は、ひたすら勉強して、いい高校、いい大学に入ること、ある程度の幸せが約束されていると思っていました。

そのゴールに向けて、テストが終われば忘れてしまうようなことも、必死で暗記したことがあるのを覚えています。「何のために?」「この勉強は何に役立つの?」そんな疑問を少しは、むねに秘めながら、答えを出すことを、ずっと後回しにしてきた気がします。「勉強」という意味自体が問われる時代になったような気がします。難しい時代、将来が見えにくい時代だからこそ、「自分の道を見つけ出すことができる学び」それが必要だと思います。それは、大人になっても役立つ学びだと思います。

では、その「学び」とは、どんなものなのでしょう?これに答えるのは、簡単ではないと思います。でも、私は今、こんなふうに考えています。人として大切なことを守りながら、自分らしく生きていくこと。たくさんの人と関わりながら自分を生かす、自分が生きる社会をつくる意思と行動力があること。「学び」は、そのための知恵と力を引き出すものだ。設定されたハードルに負けないう気持ちや集中力、ストレスを乗り越える精神力。何より、たくさんの知識が、自分にぴったりの道を選ぶ機会を広げてくれると思いました。

このごろ学校が楽しいワケ！

尾上小学校 6年 熊田みずえ

私はこのごろ学校が楽しいです。なぜって、それは、やっぱり『友達がいる』からでしょう！！まず第一に友達がいると自分に自信が出てきます。友達がいるとどんどん勇気が出てきます。何でも言いたい事が言えます。ただ、この事について私が自分の悪いクセだなと思うのは、やっぱりクラスの中でめだった人と友達の方がいいな。とってしまう所です。もしも私が変な事を言ったり、おかしい事をしてても人気のある人がバックについていれば！なんて思ってしまう。でも6年生になってそんな考え方をやめて、いろんな性格の人と友達になってみました。話しやすい人もいれば、話しにくい人もいて、明るい人がいたり、おとなしい人がいたり…。でも学校が『楽しく』なりました。みんなに「な　　あ　　あ」とか「おはよ～う」とか言ってもらおうと今日も『ガンバルゾー』っていう気持ちになります。

私は一度、親友に裏切られて親しい友達がいなくなりました。でもその時、ある女の子に声をかけてもらって、その子のグループに入りました。そのグループは、その子が私みたいに助けてあげた子でいっぱいでした。私も絶対にこういう人になりたいと思って今友達づくりをしています。学校サイコー。

コレがあるから学校が楽しい。守っていききたい物。

尾上小学校 6年 柴田麻衣

私は、尾上小学校に行けてよかったです。尾上小にはもちろん尾上町にはたくさん自然があるからです。毎日学校へ行く時、草が、朝の光でかがやいています。そして、その草花は、毎日ちがう姿を見せてくれます。友達と会うのも楽しいけど、草花の変わっていく姿を見るのも、また一つの楽しみです。学校へ行く時も帰る時も、一時一時がちがう姿で、目がおちつくのがあります。見ていると、花が楽しくゆれていたり、かなしそうにしておいたり。自然は、毎日、表情もちがうんです。「花は、しゃべりかけてあげると元気になる。」というのは、花の「心を理解してあげると。」ということなのだと思います。広い心で、花の気持ちを受け入れてあげるのは、花にとっても、受け入れてあげる人間にとっても、やすらぐのだと思います。花や草や木も、体があって心もある。命もある。だから、大切に大切にあってあげないといけないと思います。一つの生き物として。毎日、表情がちがうのは、人間にわかってもらいたいからだと私は思います。だから、毎日表情をたしかめて、見守ってあげることが大切だと思います。こんなに近くにいるのだから。むやみにひっこぬいたり、きずつけたりするのはよくないです。私は、毎日そんな自然が近くにあって幸せだと思いました。だからこれからも、守っていきたいです。

完全学校週5日制

陵南中学校 2年 山岸優子

学校が5日間になり、とてもうれしいです。前までは、土曜日は部活があって、日曜日は友達と遊びに行くとゆう感じで、家族とのつながりなど、全然ありませんでした。でも今はちがいます。休みが増え、部活も以前よりも休みが増えて、家族とのかかわりが増えました。友達と遊ぶことの方が多く、お母さんとお昼ごはんを作ったりとかして、とてもうれしいです。最近、あまりしゃべらなくなってしまったお父さんとも、出かけるようにもなりました。

今、『ゆとり教育』とかが、学力低下とかで問題になっているみたいだけど、今までは、平日、宿題とかで、せいっぱいで、休日は部活。とゆう毎日でしたが、ゆとりができたおかげで休日に、一週間分の復習、予習ができるようになり、とてもうれしいです。

今までより充実した生活ができるようになって、とってもうれしいです。まだ反対している人がいるのなら、このことをわかってほしいと思いました。

学校に行くのは理由がある

中学校 2年 矢野陽子

私は勉強がすごくニガテで学校がすごくいやです。でも、学校がなかったらどうでしょう？

私はたぶん楽しい事をせず、ただ1日が過ぎるのをボートすごしていると思います。でも今私は学校へかよっています。学校へ行くということは勉強しに行くというだけじゃなく、人間関係も勉強しに行くということです。ということは、たくさんの友達ができます。だから、私は学校に行きます。本当に友達のためだけに学校へ行くというのも理由の1つですが、本当の理由は、今みたいな学校という小さな社会だけじゃなく、もっと大きな社会にでていきたいと思っているからです。大きな社会にでていくということは、もっともっと人間関係が深まっていきます。そして、もっと自分の「友達」とめぐり会っていきたいと思っています。それには、やっぱり勉強が必要になってきます。だから今、私は社会にでていく準備をしています。これからも、勉強や人間関係を大切にして、きちんと大きな社会にでれるような自分をつくっていきます。

もう1つ、私には学校の中で楽しみな事があります。それは部活動です。部活動では本当に自分の力をためすこともできるし、のばしていくこともできます。ここで本当の自分のやりたい事や自分に向いていることを見つけていくというのは、本当にいい事だと思っています。

中学校生活はすべてが大きな社会にでる準備だと思っています。こういう事で私は学校にきてよかったと思います。

あいさつの素晴らしさ

陵南中学校 2年 長尾淳也

「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」

陵南中学校では、そういった「あいさつ」を、学校生活の基本として、とても大切にしている。この「あいさつ」は、僕たちの毎日の生活を楽しく、元気にしていくためには欠かせないもので、あいさつを「した人」も「された人」も気持ちがすっきりするものだと思う。

しかし、最近では、あいさつのできない中学生が増えてきていると言われる。「はたしてこれでいいのだろうか？このままではいけない」と思う。

普段の生活だけではなく、生徒会活動でも「あいさつ運動」を実施するなど、陵南中学校では、あいさつの習慣化に力を入れている。

そのおかげで、他校からの来客にもしっかりとあいさつができるようになっており、陵南中学校は、全国1、2位を争うほど「あいさつのできる中学校」として知られている。

陵南中の先輩方によって受け継がれてきた「あいさつ」は、よき「伝統」だと思う。僕は、この「伝統」をしっかりと受け継ぎ、さらによいものにしていかなければならないと思う。

完全週5日制はどう？

神吉中学校 3年 福田祥太郎

今年度から、完全週5日制になって、ぼくの通っている神吉中学校では、用意された科目を自分で選ぶ選択授業、「生きる」力を育てるための総合学習が週に5時間行われています。ぼくはこの取り組みが大好きです。それは、普通の授業とはまた違った感覚があるからです。でも、選択授業には、欠点があります。それは、ぼくの学校では、選択授業の科目を選ぶ時、各科目に人数制限があり、自分のしたい科目があっても、やむを得ずほかの科目になってしまい、結局自分で選ぶことによって楽しくなるはずの選択授業が普通の授業と変わらなくなってしまうのです。だから今、完全週5日制になって、土曜日が休みになっているので、その土曜日にいろんな体験などをしたらいいと思います。例えば、グランドゴルフやゲートボールをみんなで楽しむ。また、ぼくの学校で1年の時に地域の人に教えてもらう、しめ縄体験や竹細工、木工細工などを、地域の人々と一緒に体験したら、普段やらないことを体験できたり、交流が深められたりして、より地域が身近になるのでいいと思います。しかし、ゲートボールや体験するのも、今の学生だとしたいという人があまりいないと思います。だからぼくは、生徒に選択授業で何がしたいのかを聞いて、それをもとにして科目を用意し、そして選んでもらいます。そして、土曜日の1～2時間を使って“選択授業パート2”としてやったら土曜日が休みで何をしたらいいのかわからないという人もこの授業が楽しめるのでいいと思います。完全週5日制についてぼくは、月曜日から金曜日までは今のままで、土曜日を昨年度みたいに、第1、3、5曜日だけは学校に来て、前に述べたような選択授業をしたら、とても充実した1週間になると思います。

学校の良いところ

神吉中学校 3年 柴田ひとみ

学校では、毎日、同じような時間割、授業があります。私が、学校で一番良いと思うところは、自分に厳しく、相手に優しくなれるようになる。と言うところです。家にいただけでは、絶対に分からないような、友達の優しさや、学校にしかないしんどさなどが体験できるので、毎日が充実しているように感じます。

勉強を学ぶことも大切ですが、まず第一に人が人としてこれから生活していくなかで他の人に対する優しさと、自分に負けない厳しさが一番大切だと思います。それは、私が、学校の中で生活していく中、行事などを通して、毎日教えてもらっています。先生からだけでなく、周りの友達からも教えてもらうことは多く、たまには疲れたり、しんどくなってしまうこともあるけど、学校は毎日楽しいところだから、なるべく休まずに行こうと思っています。

それに、目標もてるのも学校の良いところの一つです。もう、受験生なので、今の目標ははっきりしています。ちょっと難しいかなあ、と言うところでも、一人ならあきらめてしまっているかもしれませんが、周りの友達に励ましてもらいながら、最後まであきらめずに頑張りたい、と言う目標ができました。一人で出来ない事も学校なら出来るかもしれない…。と思います。だから学校は自分にとっての良いところをたくさん見つけれるところです！！

トライ・やるをしてみて...

陵南中学校 2年 松島淳

ぼくは小学校6年生の夏休みに、カナダにホームステイを体験しました。その時は英語は全然わからなく、会話を楽しんだり、ホストファミリーに日本の事を教えられなかったり...いろいろと不満足のまま、日本に帰ってきました。それから中学生活をおくって英語を習いだしたり英語の授業で外国の先生が来たりしてすごく“国”について考えるようになりました。そして待ちに待った「トライ・やる。」絶対に国際交流に行くぞ！！という感じではりきりました。初日からとても興奮してしまいあっという間に5日間が終わってしまいました。ぼくは高校も“国際”に関係あるところに進学して、将来、国際交流の関係の職につきたいです。トライやるをして、“夢”と“希望”を見つけられました。そしてもう一つの“夢”『20才までにカナダのホストファミリーと再開して会話をしたりして楽しむ』というのを実現するためにできることからしていきたいです。身近にAETの人や国際交流センターがあるので活用したりインターネットで調べたりしていく事が夢を実現させる事につながると思う。トライやるは普段できない事ができるのですばらしいと思う。